

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）10

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43785

大正
二
十
一
年
十
一
月

極 秘
無 期 限
部 内 号

大臣	参 席 長	PM 席 長
次 官	参 事 長	参 事 長
参 事 次 官	参 事 長	参 事 長
愛知大臣、マニラ-在米大使会議(北)		
69.11.12		
北一長		
<p>前日正午最後の会議概要の通り、</p> <p>(森外務次官、PM 席長、北一長、対国務院、</p> <p>木村-公使、石田-公使出席)</p> <p>1. 共同声明関係</p> <p>大臣が、南化マニラへの問題を示し、南化が</p> <p>目下交渉中の旨(後述)を、PM 席長に公使が、南化</p> <p>のコメント(神龍以外の項目は注目を引かざる</p> <p>べし)を述べた。</p>		

2. NPT: 米朝共同声明の何かが言及を 要し、双方は不整合。
3. 安全保障問題: 双方は従来の主張を 通した。
4. 北米関係: 大臣が北米域と接触 する大使に訓令(2面)を、双方の接触 が困難な旨披露。大使が10月12日に ソ連側人士と交渉。
5. 北米経済問題: 大臣が北米域の米朝の 経済の功を述べた。
6. 経済問題: 北米と米朝交渉の各々の 特色を述べた。